

全国協議会 ニュース

2018年5月1日発行 第311号

発行所：特定非営利活動法人
全国骨髄バンク推進連絡協議会
 〒101-0031 東京都千代田区東神田1-3-4KT ビル3階
 TEL：03-5823-6360 FAX：03-5823-6365
 発行責任者：田中重勝 題字：仲田順和（会長）
<http://www.marrows.or.jp> E-Mail:office@marrows.or.jp

移植コーディネーターに診療報酬が付与 学会の努力と要望、国に認められる

本年4月の診療報酬改正により、造血細胞移植コーディネーター（以下、HCTCといいます。）に、健康保険での診療報酬点数が付与されました。コーディネート体制を充実するために、移植（骨髄移植及び末梢血幹細胞移植）1件につき1万5千円が加算されたものです。

日本造血細胞移植学会は10年前から「移植医療にはHCTCが不可欠」として、その養成・配置に努力を続け、国に対し保険適用を要望していました。今後、全国の移植病院にHCTC配置が進むことを強く希望します。

HCTC とは

造血細胞移植が、ドナーの善意を生かしつつ移植医療が円滑に行われるよう移植医療関係者や関連機関との調整、患者やドナー及びそれぞれの家族の支援を行い、倫理性の担保、リスクマネジメントにも貢献する専門職として、2012年より学会認定HCTC制度が開始されています。

HCTC の役割

- 患者・ドナー（血縁者及び非血縁者）の権利擁護（アドボカシー）、自発的意思決定プロセスの確保
- 造血細胞移植の実現に向けた医療的

プロセスへの中立的な関与

- 造血細胞提供機関や支援機関・他の医療機関との公正かつ円滑な連絡調整

患者さん、ドナーさん双方の立場を尊重し中立的な立場で移植全体のコーディネート（調整）を行っています。これらの活動により、コーディネート期間の短縮化や移植医療の社会への適正な供給が行われることとなります。

HCTC 配置の病院

2018年2月現在、全国40カ所の病院に、43人の学会認定HCTCが専任配置されて活動しています。（3面に病院一覧表を掲載）これまで学会の

HCTC 講習受講者は延べ300人以上おられ、また、骨髄バンク認定病院には、全国で73人のHCTCが配置（非常勤を含む）されています。

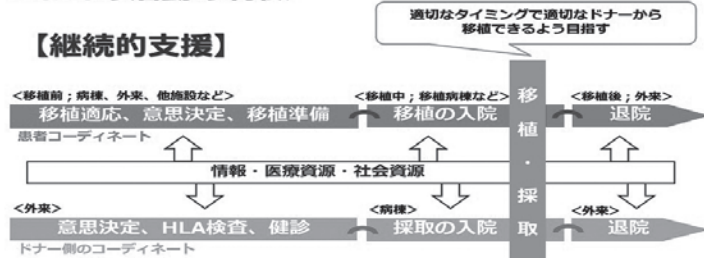
骨髄バンクのコーディネート期間短縮化のためにも、HCTCの活動内容やその重要性を広く社会に周知することが必要です。学会からは、移植施設の医師とその病院管理者の方々に、HCTC配置の必要性について、次の3点をあげて要請しています。

「病院管理者」への要請理由

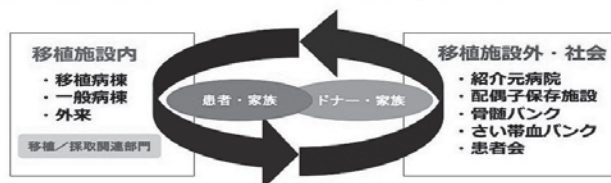
- 移植医療の実施には、患者・ドナーの権利と自発的意思を擁護する中立的な調整者の存在が必須。（医師・看護師など、ケアの直接の担い手とは異なる。）
- HCTCは移植の準備から実現に至る全ての過程に関与し、継続的かつ横断的な支援と調整を行う専門職。（既存の他職種とは明確に異なる役割を担う。）
- HCTCとしての業務に専念できる就労環境の確保がされていれば、他職種との兼任は可能。

診療報酬の加算により、認定または専任HCTCを配置することにより、移植の質の向上が図られる。

HCTCの活動の特徴



【組織横断的な活動、移植施設外にもおよび連携】



日本造血細胞移植学会 HP より転載

骨髄バンクの最新情報をお知らせする

骨髄バンク NOW

(MONTHLY JMDP(4月13日発行)より抜粋)

■日本骨髄バンクの現状(2018年3月末現在)

	2月	3月	現在数	累計数
ドナー登録者数	2,570	2,067	483,879	731,038
患者登録者数	211	205	3,715	53,368
移植例数	103	106	—	21,788

■3月の区別ドナー登録者数

献血ルーム/910人、献血併行型集団登録会/1,105人、集団登録会/0人、その他/52人

■3月の年齢別ドナー登録者数(現在数)

10代 4,111人/20代 72,038人/30代 137,595人/40代 207,807人/50代 62,328人

■3月の20歳未満の登録者162人

■3月末までの末梢血幹細胞移植(PBSCT)累計数：463件

注)数値は速報値のため訂正されることがあります。

特集

ドナー登録推進活動、頑張っています！

全国各地で、ドナー登録推進活動に様々な工夫と取り組みが行われ、着実な成果をあげています。今回は、首都圏の埼玉の会、千葉の会の活動についてご紹介します。会員の方々が頑張っておられる様子、県庁や日赤血液センターとの連携が成果となっていることが良くわかります。みなさまの地域活動のご参考としてご覧ください。

埼玉骨髓バンク推進連絡会



新人加入で活性化

埼玉連絡会は、1989年3月に結成され、今年で30年目に入りました。私（笠原）も含め、結成準備段階からの会員や結成当初からの会員も多数おり、高齢化が進み、退会者も増加傾向にあります。そのような中、近年、新人の加入増大で組織も活動も活性化しています。

3年前の会員数は95人でしたが、今年の4月では102人になりました。増加の内訳は、16、17年度に埼玉県主催で開催されたドナー登録説明員養成講座を受講し、入会された方が10人、県と当会の共催による医療相談会

と当会のホームページを通じての入会が数人です。新人の加入で、定例会や各種取り組みが活性化し、献血ルームへのドナー説明員配置も可能になりました。

献血ルームでのドナー登録説明活動

献血バスでの献血併行ドナー登録会（毎月10回前後）のほか、昨年2月から県内の3つの献血ルーム（大宮、越谷、川越）で説明活動を行っています。各ルームへ説明員1名を配置し、活動は週1回（平日）、3時間です。

これらの説明活動には、県主催の研修で養成された日本骨髓バンクの説明員（交通費等の経費は日本骨髓バンク負担）として、新人も活躍しています。

下表が、献血ルームにおけるドナー

登録の昨年度実績ですが、配置されていないルームとの違いは明瞭です。現在、配置ルーム数の拡大の検討を日赤血液センターに要望しています。

4者協議会で連携、協力

毎年3月に県の主催で、次年度のドナー登録拡大を協議する4者協議会（埼玉県、日赤血液センター、日本骨髓バンク、当会の4者）が開かれています。会議には、各機関が課題を持ち寄り、協議を通じて連携、協力が進んでいます。

この間、当会が提案し、実現・前進した主なものは下記の通りです。

【埼玉県に対して】

- ①県主催の説明員養成講座の開催
- ②市町村でのドナー登録会開催の推進
- ③医療相談会の開催

平成29年度ドナー登録者受付状況（埼玉県）

（平成30年3月末日現在） 単位：人

献血ルーム	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
所沢R	3	5	2	2	6	1	4	6	5	7	2	6	49
川越R	15	4	10	11	6	9	14	19	13	9	15	9	134
鴻巣R	1	5	3	4	0	2	3	4	1	5	3	0	31
越谷R	9	10	13	12	18	13	15	19	18	12	11	18	168
川口駅R	2	5	4	5	6	8	6	6	4	4	5	7	62
大宮ウエストR	21	22	25	16	18	27	10	26	22	21	24	24	256
熊谷駅R	0	2	5	1	2	1	3	5	4	3	5	1	32
合計	51	53	62	51	56		61	55	85	67	61	65	732

説明員にデビューしました

この度、説明員として委嘱を頂きました、さいたま市に住む谷川常子です。（写真・左から二人目）

私の志望動機ですが、平成28年5月8日に孫が2才6ヶ月で急性骨髄性白血病と診断され、骨髄移植・末梢血幹細胞移植・さい帯血移植を経て退院を目指しましたが、9ヶ月の闘病生活ののち、平成29年2月6日、やさしい小さな天使になってしまいました。

祖母として少し出来る事は何かと模索していた時、埼玉県広報紙「彩の国だより」で骨髄ドナー登録説明員養成

講座が開かれることを知り、志望いたしました。

説明員デビューは、航空自衛隊入間基地でした。会員の先輩の立石さんと横峰さんに支えられ、無事説明員として一日を過ごすことが出来ました。

また、説明後「登録しますよ」と言って頂いた言葉に、心から「ありがとうございます」と言った後に、涙が溢れそうになりました。

2月7日（水）航空自衛隊入間基地での献血は、受付74名で採血65名、骨髄バンクドナー登録には、説明20名うち9名の方にドナー登録頂き、既登録者の方も6名いらっしゃいました。



今後説明員として、つたないながら聞いて下さる方に、無理のない伝わる説明と言葉の間合いなどに気をつけ、進めてまいりたいと思っています。

ありがとうございました。

（谷川 常子）

- 【埼玉県赤十字血液センターに対して】
- ②日赤スタッフによる献血者へのドナー登録働きかけの徹底
- ②献血ルームへのドナー登録説明員の受入・配置

【日本骨髄バンクに対して】
若年層へのドナー登録会開催の推進
(大学、専門学校などへ)
(埼玉の会 笠原慶一)
◇◇◇◇

千葉骨髄バンク推進連絡会

千葉での取り組み

千葉県では、千葉県義務課、赤十字血液センター、千葉の会の三者が一体となって骨髄バンク推進活動を進めています。私・梅田も委員を務める千葉県造血幹細胞推進協議会が毎年3月に開催されており、千葉の会からの要望を提案しています。それを基に三者会(県庁・日赤血液センター・当会)で検討して活動方針を決めています。

ここ数年は「骨髄移植を希望した患者さんの60%しか移植を受けられない。」課題の対応として、特に次の2点に力を入れています。

- ①毎年2万人のドナー登録者が55歳の定年を迎えているため、毎年もっとドナー登録者数を増やす。
- ②ドナーが提供しやすい環境を整備するため、ドナー助成制度導入を推進する。

ドナー登録会の大幅増加

ドナー登録者を増やす具体的対応としては、献血併行ドナー登録会を増やすことにしました。特に、毎年学生が入れ替り若いドナー登録者が期待できる大学での献血併行登録会の開催を増やすこと。また、献身意識の高い方が多い献血ルームでの開催を増やすこと。さらに不特定多数の人が集まる幕張メッセ等のイベント会場やショッピングセンターでの開催や市町村の役所、企業での開催を増やしました。

その結果、ドナー登録会の開催数は、ここ4年で2014年度62回→15年度126回→16年度193回→17年度235回と4倍になり、登録会でのドナー登録者数は、273人→446人

→646人→865人と3倍に急増しました。一方、献血ルームでもドナー登録会增加と日赤さんの努力によりドナー登録者数は、272人→275人→337人→550



人とこちらも2倍以上に増えました。

写真は、2017年5月22日に亀田医療大学で、献血の前に学生さんに骨髄バンクとドナー登録について、語り部として千葉の会の荒井さんが説明したときの様子です。お蔭様で関心が高く、献血者39名中、ドナー登録者は31名でした。

2018年度は、さらにドナー登録会を増やす予定ですが、千葉の会の説明員の皆さんの全面協力の賜物と感謝しています。今後の課題としては、日赤さんには以下をお願いをしています。

- *新たな登録会場の開拓
- *献血併行登録会会場での日赤さんの声掛け
- *献血ルームでの登録広報の充実

ドナー助成制度の導入

ドナー助成制度導入については、懸案だった千葉県のドナー助成制度が2017年8月4日に施行され、4月に遡及して運用を開始しました。この制度を活かすため各市町村主管課の担当者に出席頂き、17年9月1日に県庁で説明会を開催して頂きました。私も導入に向けての講演をしました。その結果、それまでに導入していた市町村は54市町村中7市でしたが、18年4月1日付けで10市町村が新たに導入し、合計で16市1町になり、導入率は31%となりました。さらに導入を推進すべく会員が直接市町村に出向きお願いしています。(千葉の会 梅田正造)

ドナー登録会開催数・登録者数 (千葉県)

種別 / 回数・人数	2014年度	2015年度	2016年度	2017年度
献血併行ドナー登録回数	62回	126回	193回	235回
ドナー登録者数 (献血登録会)	273人	446人	646人	865人
ドナー登録者数 (献血ルーム)	272人	275人	337人	550人

日本造血細胞移植学会認定HCTC在籍施設 (2018年2月1日現在)

- ★滋賀医科大学
- ★★京都大学
- ★大阪市立大学
- ★兵庫医科大学
- ★神戸大学
- ★神鋼病院
- ★神戸市立医療センター中央市民病院
- ★兵庫県立がんセンター
- ★岡山大学
- ★倉敷中央病院
- ★鳥根大学
- ★広島赤十字・原爆病院
- ★山口大学
- ★愛媛県立中央病院
- ★原三新病院
- ★九州大学
- ★浜の町病院
- ★大分県立病院
- ★今村病院分院

移植推進拠点病院

認定HCTC在籍施設

○ 拠点病院

● 拠点病院以外

- ★北海道大学
- ★札幌北極病院
- ★青森県立中央病院
- ★東北大学
- ★福島医科大学
- ★筑波大学
- ★駒込病院
- ★東京大学医学部研究所
- ★聖路加国際病院
- ★慶應大学
- ★国立がん研究センター中央病院
- ★虎の門病院
- ★★千葉大学
- ★神奈川県立がんセンター
- ★神奈川県立こども医療センター
- ★東海大学
- ★信州大学
- ★名古屋第一赤十字病院
- ★安城更生病院
- ★江南厚生病院
- ★金沢大学

HCTC委員会開催の講習受講者数は延べ300名以上

全国の移植施設で活動中の認定HCTCは43名(資格保持者45名)

日本造血細胞移植学会 HP より転載



福岡

筑前いづか雛のまつり

毎年恒例の「筑前いづか雛のまつり」が、福岡県飯塚市の旧伊藤伝右衛門邸で2月3日～3月27日まで行われました。会場の一角で募金活動が行われ、雛のまつりに来られた多くの人たちに骨髄バンクを知っていただける機会となりました。雛の

まつりには2万人を超える方々が来場され、スタッフがお声がけして募金をしていただきました。

今年でちょうど30年の節目でしたので、全国協議会から感謝状をお贈りしました。贈呈式は4月12日、会場で全国協議会・田中重勝理事長より雛のまつり実行委員長の瀬下麻美子様へお渡しいたしました。当日は、新聞社4社とTV1局が取材に来ていただいて翌日報道が行われました。

この報道により、より多くの人に骨髄バンクを知っていただけたと思います。ボランティアは続けていくことに



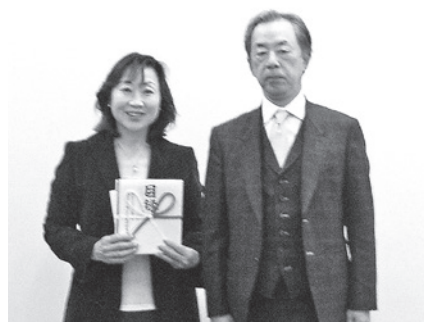
(左：田中理事長、右から二人目：瀬下麻美子様)

意義があり、また、いろいろなところへ顔を出し、いろいろな方とお会いするのが大事なことだと実感しました。

(福岡 田中幸一)

永年のご支援 ありがとうございます。

「メディカルー光」様からご寄付



(左：大谷貴子顧問、右：南野利久様)

1月18日(木)株式会社メディカルー光(代表取締役社長南野利久)様から、全国各地において骨髄バンク推進運動を展開していることに対し、CSR(社会貢献)活動として100万円のご寄付をいただきました。

同社は、三重県をはじめ中部・関西地区で95店舗の調剤薬局(保険薬局ともいいます)を展開し、CSR活動にも積極的に取り組んでおられます。2000年以降は、毎年「小児がんの子どものサマーキャンプ、病気の親子の宿泊施設、世界の子どもにワクチンを日本委員会」などへの支援活動をされています。

南野社長は「20年以上前から骨髄バンクのボランティア活動に共感し、大谷貴子さん(当協議会顧問)とともに韓国骨髄バンクや台湾骨髄バンクを訪問した」という方で、以来、私どもに永年にわたり暖かなご支援をいただいています。

現在、一般社団法人日本保険薬局協会の会長も務められており、昨年11月さいたま市の学術総会では、骨髄バンク啓発コーナーを設置するご協力をいただきました。南野様と同協会の皆様にご感謝申し上げます。



基金給付を受けた方からの メッセージ

こうのとりにマリン基金

娘はまだ19歳でした。将来子どもが産めないかもしれないという話にショックを受けておりました。

子どもが大好きで保育士を目指してスタートしたばかりでした。高校も保

育科で勉強し、人生設計を企てておりました。その将来も実現できるかわからない、ましてや、自分の子どもも出来ないかという不安の中、卵子保存を考えたものの高額な治療費がかかる。我が家はひとり親家庭!この基金が無ければあきらめていたと思います。

助成金が出たことで次の夢へ繋げていけます。本当に感謝しております。卵子の写真を手にした時、看護師さんが「これをお守りにして治療を頑張つてね」と言われて大変励みになりました。

お金がなければ可能性があってもその希望を捨てなければならなかった。これが現実です。これからの将来、希望をもって頑張っていけます。ありがとうございました。(九州地方在住)

心からのご寄付に感謝申し上げます ●3月21日～4月20日(敬称略)

●一般	骨髄バンクを支援する松江の会	鎌倉屋	現金	3,264円
東京港南マリンロータリークラブ	会長 金森金好	磯屋食堂	伊藤博康	
現金	20,000円		現金	17,660円
株式会社セルテック・リフレ	公益財団法人 大原記念倉敷中央医療機構	足立眼科医院	現金	5,009円
現金	6,086円	ゴールドジム仙台宮城		
69円	公益財団法人 大原記念倉敷中央医療機構		現金	4,233円
株式会社チエノワ情報システムズ	現金	11,830円	タオサロン WOODMARIE	
現金	17,672円	万々 宏	現金	5,000円
株式会社エイブラフト	堀内 信吾	現金	5,000円	五島奈々恵
現金	10,000円	匿名	現金	50,000円
医療法人政小児科内科医院	理事長	政 眞太郎	現金	100,000円
現金	100,000円	塩谷 泰人	現金	1,000円
100,000円		松浦 大助	現金	2,634円
2,634円		荒川 友好	現金	2,000円
2,000円		匿名	現金	5,000円
5,000円		●白血病支援基金	匿名	現金
匿名	現金	50,000円		
●佐藤さち子患者支援基金	筑前いづか雛のまつり実行委員会	現金	95,123円	
現金	95,123円	らいらっくの会	代表	田中年子
代表	田中年子	現金	38,000円	
38,000円		●こうのとりにマリン基金	東京港南マリンロータリークラブ	匿名
匿名	現金	211,190円		
211,190円		匿名	現金	1,000円
1,000円		●募金箱	株式会社クスのアオキ	現金
現金	404,817円		株式会社北越ケース	現金
404,817円			現金	505,327円
505,327円			ドライブイン豊山	現金
現金	3,191円		ビッグドラゴン	現金
3,191円			現金	8,926円
8,926円			星子ひさし整形外科	現金
現金	2,520円		外来患者様有志	現金
2,520円				

活動資金の支援をお願いします

銀行口座 三井住友銀行 新宿通支店
普通 5666655

郵便振替口座 00150-4-15754

口座名：特定非営利活動法人 全国骨髄バンク推進連絡協議会